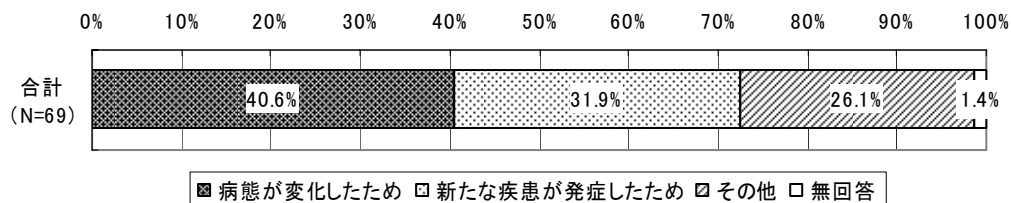


2) 現在のリハビリテーション料に切り替えた理由

現在のリハビリテーション料に切り替えた理由については、「病態が変化したため」(40.6%) が最も多く、次いで、「新たな疾患が発症したため」(31.9%) となっている。

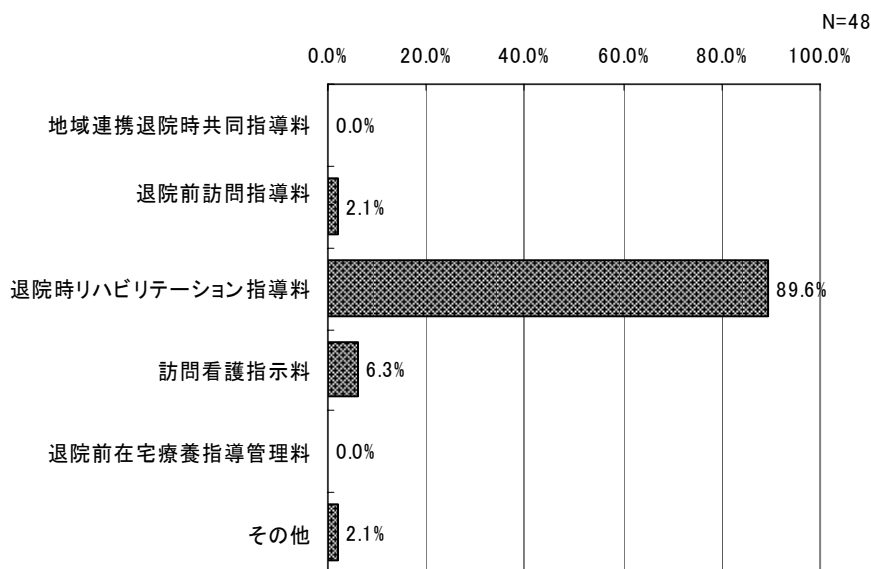
図表 6.7-10 現在のリハビリテーション料に切り替えた理由



(6) その他の算定項目 (複数回答)

「呼吸器リハビリテーション料」以外に算定した項目については 249 名のうち 48 名が算定しており、内訳は次のとおりとなっている。

図表 6.7-11 その他の算定項目

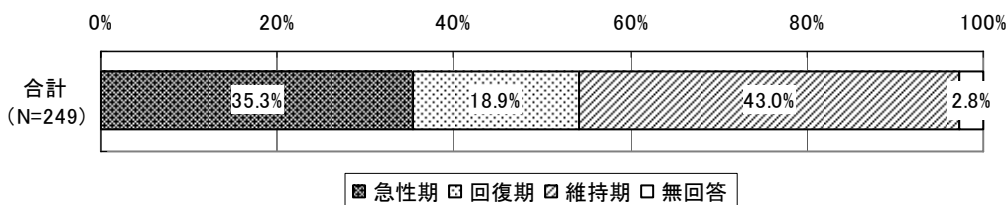


(7) 調査時点の患者の状態

1) リハビリテーションの段階

リハビリテーションの段階については、「維持期」(43.0%) が最も多く、次いで、「急性期」(35.3%)、「回復期」(18.9%) となっている。

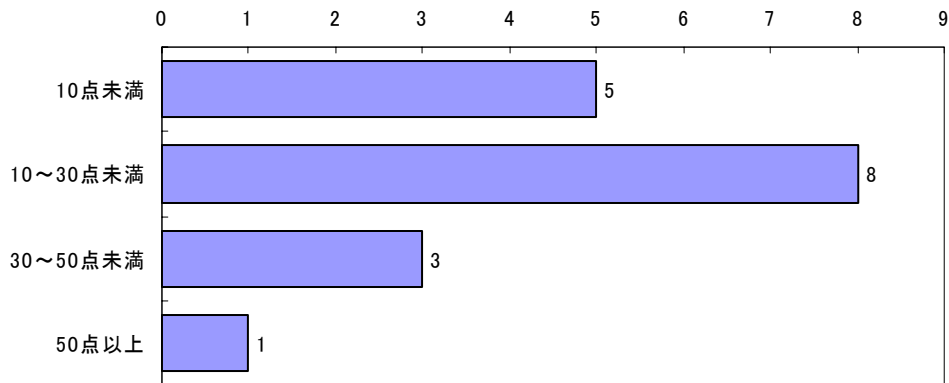
図表 6.7-12 リハビリテーションの段階



2) 患者の状態評価

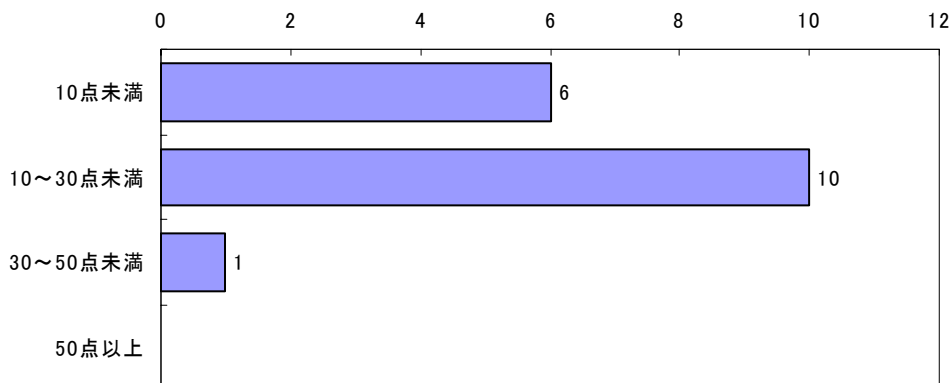
患者の状態評価において、バーセル・インデックスを用いた評価（終了時の点数と開始時の点数との差）については、「10～30点未満」（8名）が最も多く、次いで「10点未満」（5名）となっている。

図 6.7-1 患者の状態評価（バーセル・インデックス）



患者の状態評価において、FIMを用いた評価（終了時の点数と開始時の点数との差）については、「10～30点未満」（10名）が最も多く、次いで「10点未満」（6名）となっている。

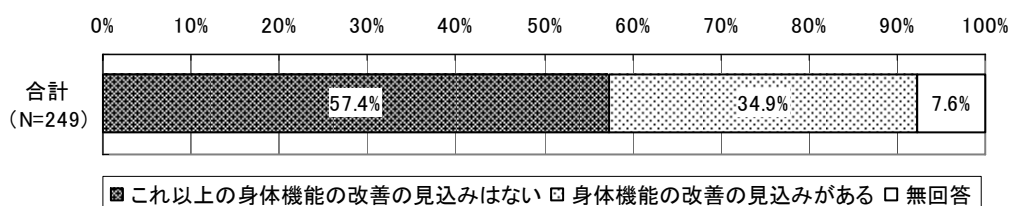
図 6.7-2 患者の状態評価（FIM）



3) 状態の評価

状態の評価については、「これ以上の身体機能の改善の見込みはない」が 57.4%、「身体機能の改善の見込みがある」が 34.9%となっている。

図表 6.7-13 状態の評価

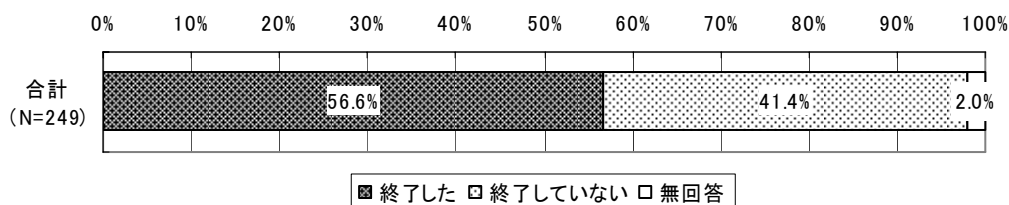


(8) 医療保険によるリハビリテーション後の対応

1) 医療保険によるリハビリテーション終了の有無

医療保険によるリハビリテーション終了の有無については、「終了した」が 56.6%、「終了していない」が 41.4%となっている。

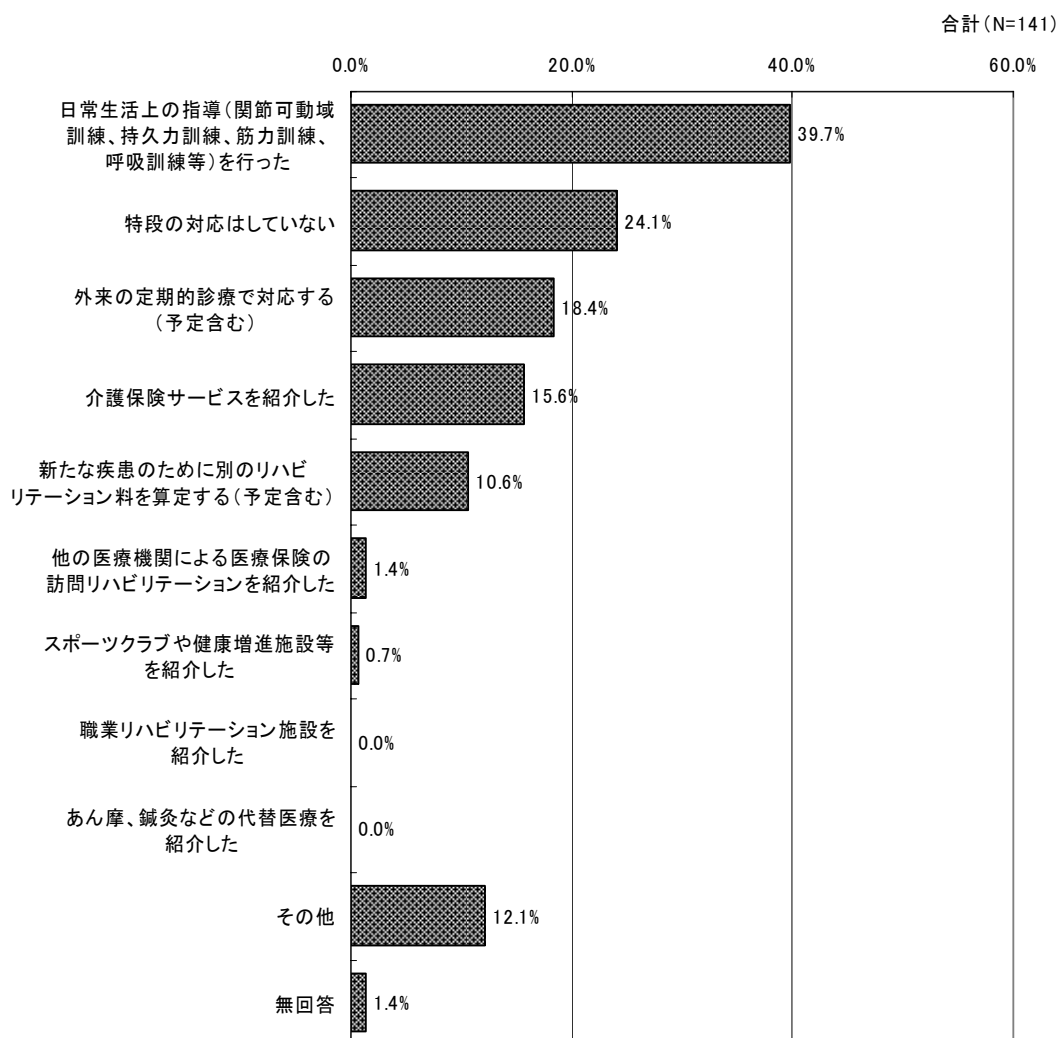
図表 6.7-14 医療保険によるリハビリテーション終了の有無



2) リハビリテーション終了後の対応（複数回答）

リハビリテーション終了後の対応については、「日常生活上の指導（関節可動域訓練、持久力訓練、筋力訓練、呼吸訓練等）を行った」（39.7%）が最も多く、次いで、「特段の対応はしていない」（24.1%）となっている。

図表 6.7-15 医療保険によるリハビリテーション終了後の対応



(9) 代表的な疾患と算定日数の関係

代表的な疾患と算定日数の関係、及びその患者の内訳は次のとおりである。

算定日数上限前にリハビリテーション料の算定を終了した患者のうち、「身体機能の改善の見込みがある」とされた患者の割合が高い。これは、調査に回答した医療機関でのリハビリテーションが終了した患者が対象であり、実際にはその後、他の医療機関にてリハビリテーションを実施しているものと推察される。

表 6.7-1 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限前に終了)

	上限前（75日まで）					
	生活の場で状態の維持が可能	これ以上改善の見込みはない			身体機能の改善の見込みがある	無回答
		状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護保険対象	介護保険対象外	無回答		
合計 (N=91)	38	7	1	2	28	15
	41.8%	7.7%	1.1%	2.2%	30.8%	16.5%
肺炎 (N=25)	10	6	0	1	7	1
	40.0%	24.0%	0.0%	4.0%	28.0%	4.0%
その他の呼吸器疾患又はその術後の患者 (N=32)	16	0	0	0	5	11
	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.6%	34.4%
慢性閉塞性肺疾患 (COPD) (N=13)	8	0	0	1	4	0
	61.5%	0.0%	0.0%	7.7%	30.8%	0.0%
その他 (N=21)	4	1	1	0	12	3
	19.0%	4.8%	4.8%	0.0%	57.1%	14.3%

表 6.7-2 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限をもって終了)

	上限（76～90日）をもって終了					
	生活の場で状態の維持が可能	これ以上改善の見込みはない			身体機能の改善の見込みがある	無回答
		状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護保険対象	介護保険対象外	無回答		
合計 (N=25)	4	16	0	0	4	1
	3.0%	11.9%	0.0%	0.0%	3.0%	0.7%

	上限（76～90日）をもって終了					
	維持が可能 生活の場で状態の	これ以上改善の見込はない			見込みがある 身体機能の改善の	無回答
		状態維持のために リハの継続が必要				
		介護保険 対象	介護保険 対象外	無回答		
肺炎 (N=5)	0 0.0%	4 10.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.7%	0 0.0%
その他の呼吸器疾患又はその術後の患者 (N=1)	0 0.0%	1 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
慢性閉塞性肺疾患 (COPD) (N=13)	2 6.7%	9 30.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.3%	1 3.3%
その他 (N=6)	2 6.3%	2 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 6.3%	0 0.0%

表 6.7-3 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限後に終了)

	上限後（91日以降）					
	維持が可能 生活の場で状態の	これ以上改善の見込はない			見込みがある 身体機能の改善の	無回答
		状態維持のために リハの継続が必要				
		介護保険 対象	介護保 険 対象外	無回答		
合計 (N=6)	1 1.1%	4 4.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%
肺炎 (N=1)	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他の呼吸器疾患又はその術後の患者 (N=0)	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
慢性閉塞性肺疾患 (COPD) (N=2)	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他 (N=3)	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%

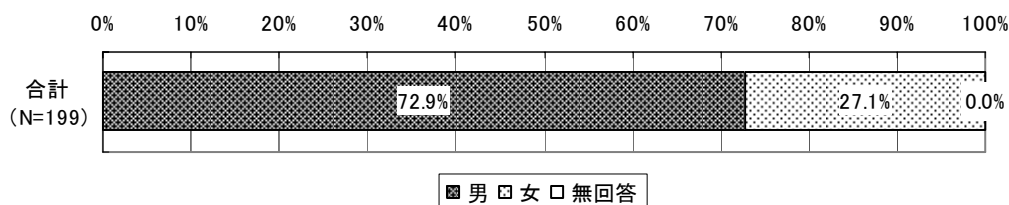
6.8 患者の状況(2)【患者調査票（心大血管疾患リハビリテーション）】

(1) 基本情報

1) 患者の性別

患者の性別についてみると、「男性」が72.9%、「女性」が27.1%となっている。

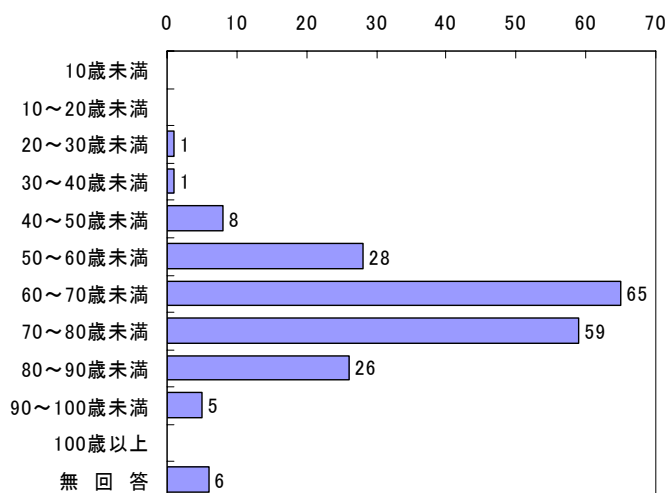
図表 6.8-1 患者の性別



2) 患者の年齢（平成 18 年 12 月 1 日時点）

患者の年齢についてみると、「60～70歳未満」が65名で最も多く、次いで「70～80歳未満」が59名となっている。

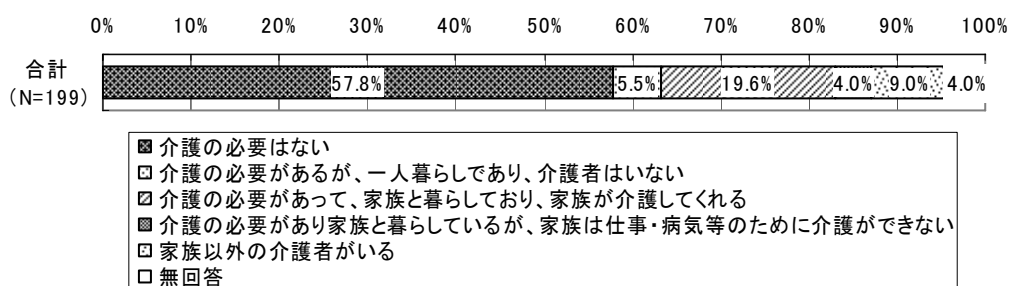
図表 6.8-2 患者の年齢（N=199）



3) 本人又は家族が判断した介護の必要性

本人又は家族が判断した介護の必要性についてみると、「介護の必要はない」(57.8%)が最も多く、次いで、「介護の必要があって、家族と暮らしており、家族が介護してくれる」(19.6%)となっている。

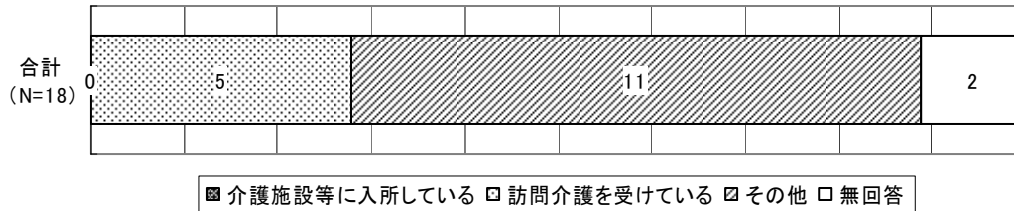
図表 6.8-3 介護の状態



4) (家族以外の介護者がいる場合の) 介護保険の利用状況

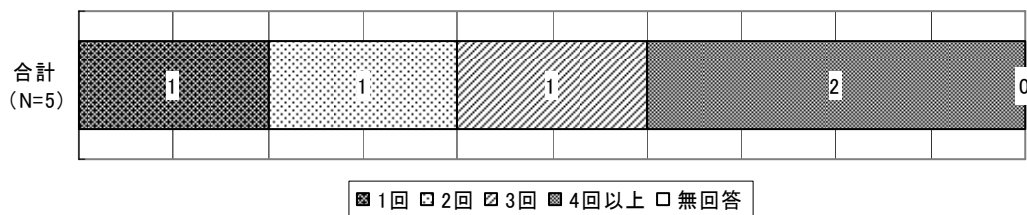
家族以外の介護者がいる場合の介護保険の利用状況についてみると、「その他」が 18 名中 11 名と最も多く、次いで「訪問介護を受けている」が 5 名となっている。

図表 6.8-4 介護保険の利用状況



訪問介護の回数についてみると、「4 回以上」が 5 名中 2 名、その他は 1 名ずつとなっている。

図表 6.8-5 訪問介護の回数

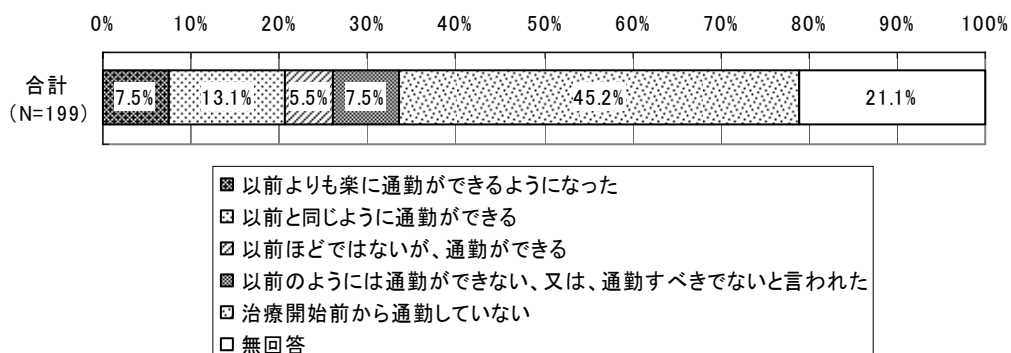


(2) リハビリテーションを始めたときの生活と現在の状況との比較

1) 通勤について

通勤についてみると、「治療開始前から通勤していない」(45.2%) が最も多く、次いで、「以前と同じように通勤ができる」(13.1%) となっている。

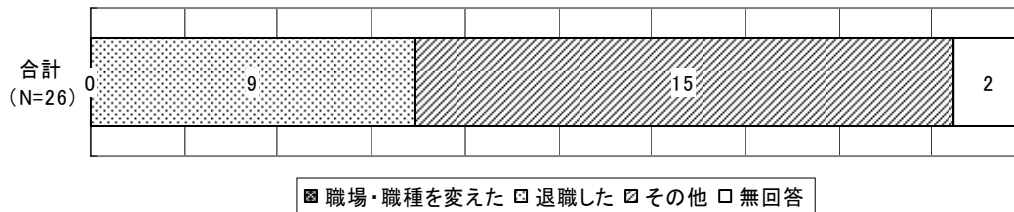
図表 6.8-6 通勤について



2) (通勤の状況に変化がある場合)具体的な変化の内容

1)で「以前ほどではないが、通勤ができる」または「以前のように通勤ができない、又は、通勤すべきでないと言われた」と回答した患者のうち、通勤の状況に変化がある場合の具体的な変化の内容についてみると、「その他」が26名中15名と最も多く、次いで「退職した」が9名となっている。

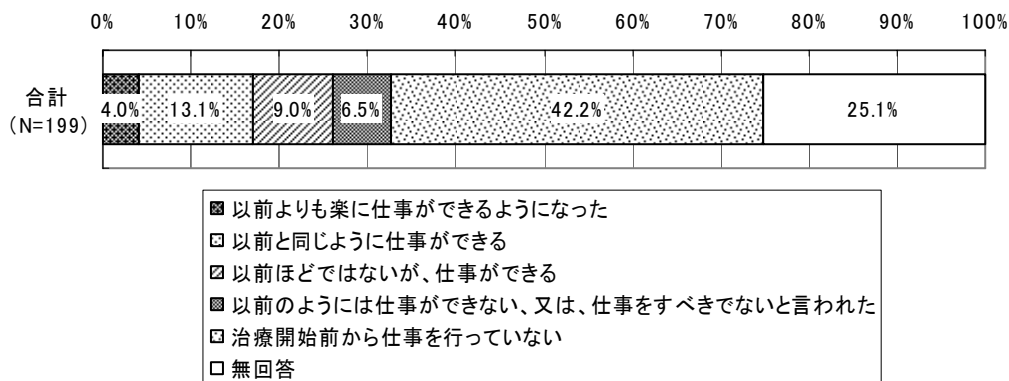
図表 6.8-7 (通勤の状況に変化がある場合) 具体的な内容の変化



3) 仕事について

仕事についてみると、「治療開始前から仕事を行っていない」(42.2%)が最も多く、次いで、「以前と同じように仕事ができる」(13.1%)となっている。

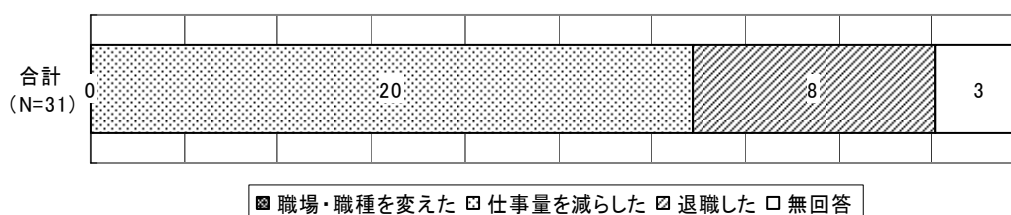
図表 6.8-8 仕事について



4) (仕事の状況に変化がある場合)具体的な変化の内容

3)で「以前ほどではないが、仕事ができる」または「以前のように仕事ができない、又は、仕事をすべきでないと言われた」と回答した患者のうち、仕事の状況に変化がある場合の具体的な変化の内容についてみると、「仕事量を減らした」が31名中20名と最も多くなっている。

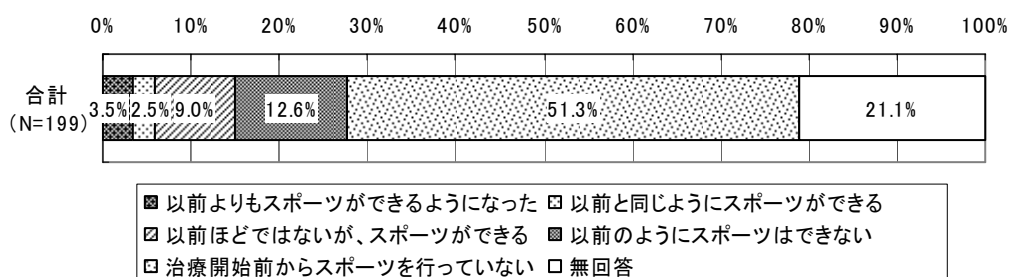
図表 6.8-9 (仕事の状況に変化がある場合) 具体的な変化の内容



5) スポーツについて

スポーツについてみると、「治療開始前からスポーツを行っていない」(51.3%)が最も多く、次いで、「以前のようにスポーツはできない」(12.6%)となっている。

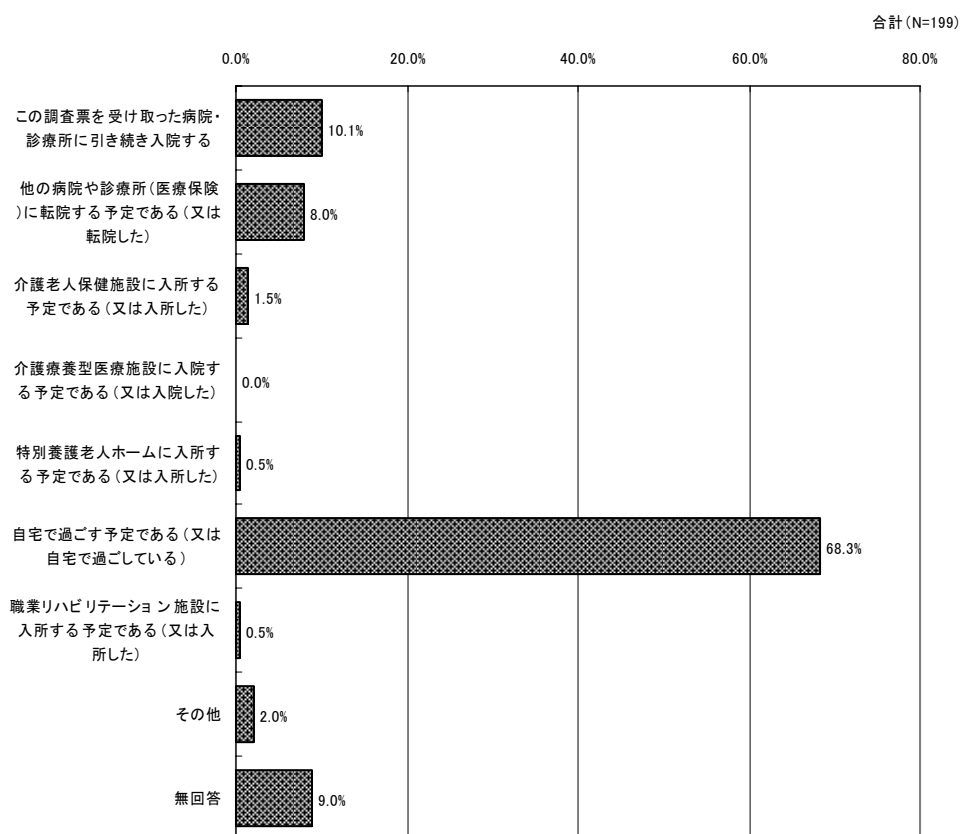
図表 6.8-10 スポーツについて



(3) 今後予定している生活場所

今後予定している生活場所 (又は現在生活している場所) についてみると、「自宅で過ごす予定である(又は自宅で過ごしている)」(68.3%)が最も多く、次いで、「この調査票を受け取った病院・診療所に引き続き入院する」(10.1%)となっている。

図表 6.8-11 今後予定している生活場所



1) (自宅で過ごす場合) 復職・復学の予定 (複数回答)

自宅で過ごす場合の復職・復学の予定についてみると、「就労(復職・再就職)する予定である(又は復職している)」(30.9%)が最も多くなっている。

図表 6.8-12 (自宅で過ごす場合) 復職・復学の予定

